

| 開催年度 | 講 師 | テ ー マ |
|------|-----------------------------|---|
| 1978 | 高 史 明 (作家) | 人にやさしい ～「生きることの意味」をとおして～ |
| | 関 広延 (高校教師) | おのれを見つめる ～沖縄にいて視えてくるのは日本ことである～ |
| | 金 時 鐘 (詩人・高校教師) | 私と出会った人々 |
| | 三好 康子 (止揚学園保母) | 子どものためにはなく・ともに |
| | 松井 泰子 (止揚学園保母) | ～障害児とともに生きて～ |
| 1979 | 野木 三吉 (横浜市立寿生活館職員) | 教育の原型をもとめて ～寄せ場の相互教育～ |
| | 森滝 市郎 (樹形理事長・広島大学名誉教授) | 人類は生きねばならない ～私の被爆体験から～ |
| | 川島 征三 (絵本作家) | 生命 (いのち) と向きあうとき ～僕と絵本と現世と～ |
| | 大川恵美子 (部落解放同盟大阪府連元婦人部長) | まちがいはいちいあるわけやね 命もたら差別は ないんや、おもとつた～差別のなかを生きぬいて～ |
| | 丸山友岐子 (評論家) | 女の自由 ～我が愛と生の履歴書～ |
| 1980 | 水上 勉 (作家) | 人間と風上 |
| | 金 貫 汀 (ルポライター) | “壁” とよばれた少年 ～ある いじめられっ子の自殺～ |
| | 小林 初枝 (高校司書) | なぜ差別はなくならないか ～被差別部落に生まれ育ち、そして差別とたたかって～ |
| | 真尾 悦子 (作家) | 「ありのままの人生」 ～貧乏も病気もいっそそれらと友達つきあいをして～ |
| | 齋藤 茂男 (共同通信記者) | 事実が私を鍛える ～現代を取材しながら考えること～ |
| 1981 | さねとうあきら (児童文学者) | 子どもが子どもらしさをとりもどす時 ～わたしの児童文学が日指すもの～ |
| | 田島 征三 (絵本作家) | ぼくたちの絵の世界 |
| | 田島 征彦 (絵本作家) | ～土と生命の交感を描いて～ |
| | 阪本ニシ子 (部落解放地域歴史文化を守る会会長) | みんな手をつないでほしいねん ～差別の中を生きぬいて～ |
| | 宗 秋 月 (詩人) | 我が町猪飼野を語る |
| | 井上 光貞 (小説家) | 露天市場から小説は始まる |

| | | |
|------|-------------------------------|--------------------------------------|
| 1981 | 山内 徳信 (読谷村村長) | 基地の中における文化村づくり ～沖縄・読谷村の自治の戦い～ |
| 1982 | 上江州トシ (札幌・生活と文化を守る婦人協議会会長) | いなやぐや平和のさちばい (女) (先がけ) |
| | 栗原 貞子 (詩人) | 核時代に生きる ～ヒロシマ体験をとおして、今、私たちは～ |
| | 朴 壽 南 (作家) | もうひとつのヒロシマ、もうひとつの日本 ～朝鮮人被爆者の体験から～ |
| | 水木しげる (漫画家) | 戦争のはなし |
| 1983 | 斎藤 次郎 (子供調査研究所) | 地球は、子どもの遊び場 |
| | 佐江 衆一 (作家) | ヒトはやむなく路上に眠る ～寿町浮浪者襲撃事件を見すえて～ |
| | 神田三亀男 (日本農業新聞・広島版編集者) | 原爆と村の女たち ～聞き書きにこめた思い～ |
| | 松下 竜一 (作家) | やさしさということ ～豊前火電建設阻止の闘いの中で～ |
| | 徳村 彰 (ひまわり文庫主宰) | 激動の中でこそ子どもは育つ ～横浜ひまわり文庫の十一年～ |
| | 山谷 哲夫 (映画監督) | なぜ、いま「買春」なのか ～映画を作る根っこにあるもの～ |
| 1984 | 辛 基 秀 (映画プロデューサー) | 在日朝鮮人、もうひとつの歴史 ～発掘された真実～ |
| | 伊藤 ルイ (博多人形彩色職人) | 反戦の日々を生きる ～自然と生への渴仰を胸に～ |
| | 寺本 知 (詩人) | 熱と光を求めて ～わたくしの出会った人たち～ |
| | 保坂 展人 (学校解放新聞社代表) | 先生、涙をください ～いこうぜ！学校地獄からの脱出～ |
| | 鎌田 慧 (ルポライター) | 工場と学校の現場から ～進む管理強化と人間荒廃～ |
| 1985 | 石元シゲ子 (「いのちの底が抜けた」の著者) | いのちの底が抜けたァ |
| | 藤井 誠二 (「オイこら！学校」の編者) | オイこら！学校 |
| | 西岡 務 (全国障害者解放運動連絡会事務局長) | 障害者としてあたりまえに生きたい！ |
| | 山尾 三省 (詩人) | 人間の故郷性を求めて |

| | | |
|------|---------------------------------------|--|
| 1985 | 数木 本積(恩公時習社理事) 松田智江子(元西州編入教師) | 涙の対面以後の帰国者の生活と思い ～戦後四〇年中国と日本のはざままで～ |
| 1986 | 川崎 彰彦(作家) | ものぐさ人生 |
| | 鈴木みち子 (フリージャーナリスト) | 校則にみる人の「生」と「性」 |
| | 佐伯 敏子 (ヒロシマの語り部) | ヒロシマに歳はないんよ |
| | 奥地 圭子 (登校拒否会の代表・元小学校教員) | 学校信仰を越えて ～今、人間としての学びを～ |
| 1987 | 田中 美津 (子どものがた育て「レハサセ」主宰) | 傲慢は美德の物語 ～誤解されればなしのウーマンリブ～ |
| | 金 洪 仙(元朝鮮半島で生活した日本人) 鈴木 常勝(元中国留学生) | アジアをつなぐ家族 |
| | 浅野 健 (記者) | 犯罪報道のあり方を問う |
| | 東淵 修(詩人) | カンカン(熱中)人生や |
| | 小栗 康平(映画監督) | 映画をとおして |
| 1988 | 前川 む一 (「好きです人間展」事務局員) | 途切れがちな対話をつなぐために |
| | 中西清太郎 (「廃墟の中から」の著者) | 廃墟の中から ～わが水本村の闘い～ |
| | 金 香都子 (大阪市立天王寺中学校教諭・学芸員) | 猪飼野路地裏通りゃんせ |
| | 五十嵐照美 (日本初女子教師・部落解放センター職員) | 私と部落解放 |
| | むのたけじ (著述業「たいまつ」新聞主宰) | 生きることを問う直す ～昭和史への証言～ |
| 1989 | 吉田ルイ子 (フォトジャーナリスト) | 見つめられる日本 ～第3世界と私たち～ |
| | 金 満 里 (劇団「熊変」主宰) | 私のおるところから見えてくるもの |
| | 萩原 葉子(作家) | 人生はいつも今のなかに |
| | 大島 静子 (女性の家「HELP」前ディレクター) | 「アジア出稼ぎ女性」は問いかける ～HELPから見た日本～ |
| | 吉田小百合 (松原教育を守る会) | 「更池に生きて」 ～差別によって奪われた子育てをとり戻す～ |

| | | |
|------|--------------------------------------|---------------------------------|
| 1989 | 鳥 成郎 (精神科医) | 心病みながら生きること |
| 1990 | 阪本 秀夫 (日本教育法学会理事) | 子どもの権利条約と校則 |
| | 新正 卓 (写真家) | 中国残留孤児を撮りつづけて |
| | あんばいこう (「無明舎出版」経営) | 「地方」の視線 |
| | 洪 貞子 (宇治ウトロ住人) | 私とウトロとの出会い ～生きていかなくは～ |
| 1991 | 磯本 恒信 (長崎大学講師) | 長崎に生きて ～被爆と被差別のはざままで～ |
| | 土本 典昭 (記録映画作家) | 記録映画はひとびとの合作である |
| | みなみあめん坊 (「月夜のムラで星を見た」著者) | 差別社会を“ムラ”から見れば |
| | 中嶋昌一郎 (「浪花の板前国賊囃」著者) | はぐれ板前、国賊となる |
| 1992 | 岸 キヌエ (部落解放同盟日之出支部副部長) | みやらの子もり唄 ～私の生きてきた道～ |
| | チカッ美恵子 (アイヌ文様刺繍家) | 多民族社会は可能か？ |
| | 上田 音市 (全国講館連絡協議会名誉会長) | 私の解放運動 ～その七〇年～ |
| | 金城 実 (彫刻家) | 復帰二〇年 |
| | 玉城 利則 (沖縄三線奏者) | ～沖縄を語る～ |
| | 池田千鶴子 (放浪の吟遊詩人) | 命を見つめ 命を奏でる |
| | ギリヤーク 尼ヶ崎 (大道芸人) | 街角に踊るじょんがら一代 |
| | 坂岡嘉代子 (はぐるまの家代表) (国際先住民族年記念講演) | はぐるま太鼓 輝かそう子供たち ～ありのままの大人から～ |
| 1993 | 床 ヌブリ (彫刻家) | 私の出会った人々 |
| | 辻野ナオミ (ネグロス教育里親運動会長) | 近所の国から見た日本 |
| | 松本 剛 (弁護士) | HIV (エイズ) と共に 生きる社会をめざして |
| | 武富登巳男 (兵士・市民の戦争資料館主宰) | “呑むす友を忘れまじ” 彼我多くの犠牲の上に今日がある |

| | | |
|------|--|----------------------------|
| 1993 | 斎藤 洋一 (財)信州農村開発史研究所研究員) | 部落の歴史をとりもどす闘いのなかで |
| | もろさわようこ (女性史研究家) | 愛にみちて歴史を拓き 心華やぐ自立を生きる |
| 1994 | 木村美代志 (財)大阪同和事業促進協議会理事) | 差別の中を生きぬいて |
| | 柴 石 日 (作家) | 持続する意思 |
| | ハツ塚 実 (尾道短期大学非常勤講師) | 私の「人間科」授業 ～いのちの灯をかざして～ |
| | 谷口 明広 (障害者自立生活問題研究所代表) | 夢を抱き、夢をかなえる ～障害と楽しく生きる～ |
| | 山田 薫 (星ヶ丘厚生年金病院医師) | 障害者の排尿障害治療にかかわって |
| 1995 | 吉田 正行 (神戸市立中央図書館長) | 盲ろう者の声 ～ボランティアって何だろう～ |
| | 牧田 清 (フォトジャーナリスト) | 写真をとおして出会った人々 |
| | 坂本 信一 (おたけ自治体の結核問題に悩まされて困る) | ゴミにまみれて |
| | 林 力 (九州産大大学経済学部教授) | 学ばされ、牛かされて |
| | 桑村 忠史 (徳島県同和問題啓発専門委員) | 自分らしく学ぶということについて |
| 1996 | 花井 十伍 (大阪HIV訴訟原告団理事) | HIV 「死の恐怖を越えて 普通に生きたい」 |
| | 藤 承博 (作家「裸の捕虜」の著者) | 私の生きてきた道筋 |
| | 池田 栄子 (尾崎市社会同和指導員) | 寄り道 まわり道 共に生きるために |
| | 大井 益二 (技術コンサルタント) | 見えなくても 明日にむかって |
| | バルゴ・マイラ(在日フィリピン女性) 横崎 寿子(英訳、フィリピン語訳家) | フィリピン女性とその子 「日本に生きる」 |
| 1997 | バイマーヤンジン (声楽家・チベット出身) | 遠くチベットから 日本で暮らして |
| | 和田 武広 (「はじけ家集一千記」編者) | 二度とない人生だから |
| | 村上 初一 (前大久野島毒ガス資料館館長) | 伝えておきたいこと |

| | | |
|------------------------------|--|--|
| 1997 | 今野紀世子 (大阪国際大学和文センター副学長) (大阪国際大学の経験を通じての表現) | 大阪人空襲の生存者として 戦争の恐怖を語る |
| | 金 時 鐘 (詩人・エッセイスト) | 私の日本語 私の「日本」 |
| 1998 | 粟 容 子 (女のための大工教室主宰) | 木を通して人間を考え 人間の営みを通して美しいものを探す |
| | 金 里 博 (在日ハンゲル詩人) | 私が朝鮮語で詩を書くこと —生きること— |
| | 岡田 雅春 (高槻市立上牧小学校教諭) | 近ごろの子ども事情 —育てたい「自尊心」— |
| | 武田 靖彦 (広島県原爆被害者刊本協議会所属) | 子や孫に緑豊かで 平和な世界を残したい |
| | 仲谷 真一 (大阪府精神障害者福祉会「はらびのつばき」代表) | 精神病になってよかった —「精神障害者」である私の今までの生活から見えてくるもの— |
| 1999 | 安倍 夏丸 (小説家) | 雑魚寝ばなし —常識・価値観を考える— |
| | 高橋 卓志 (神宮寺住職・アクセス21代表) | 生きること死ぬこと |
| | 乾 千恵 (時に「書も書くエッセイスト」) | 自分らしく生きたい —ありのままに 夢を持って— |
| | 金 秀 男 (岡山YMCAアジア青年センター代表) | カネモト・ビデオから キム・スナムへの道のり |
| 2000 | 青木 新門 (小説家) | いのちに生かされて —だが少年たちは今— |
| | 金城 馨 (関西沖繩文庫主宰) | 大阪から見た沖縄 そして大和 |
| | 今里 哲 (シャンソン歌手) | 私の人生、薔薇ん、バラん |
| | 東野 健一 (ポトウア/絵巻物師) | 遠くて近い困インド そこで出会った事 |
| | 中谷紀美子 (夜間中学校教諭) | 教える側が育てられ —30余年義務教育にかかわって— |
| | 2001 | 石田 雅男 (長島愛生園入園者自治会会長) |
| 鄭 甲 寿 (ワノコリアフェスティバル実行委員長) | | ワノコリアを目指す私の想い |
| 記虎 敏和 (専光学園高校教諭・ラグビー部監督) | | 情熱と愛情 —子どもたちの可能性を信じて— |
| 辻 二 (大阪育髄日傷者協会会長) | | 人生をサバイバルからアートへ —障害者のトータル・リハビリテーションから— |

| | | |
|------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 2001 | 本田 哲郎 (全日本音楽連合会代表・作曲家) | 野宿をしられた仲間の願いと連帯したい! |
| 2002 | 今城千重子 (中津市健康づくり推進委員会・モデル) | いつでも人生スタートライン 好きで歩いたわが半生 |
| | 奈沢 泰裕 (J・W・M 弟子教会 牧師) | 生き方を変えた男!! むかしヤクザ、今牧師 |
| | 高平 和子 (人形劇クラテ所属・人形劇俳優) | 人形劇に生きる ～出会いが支えてくれたこと～ |
| | 清水マリアルース (ボランティアグループ「イフィク」代表) | 異なった文化とともに暮らして |
| | 河野 和永 (NPO法人陽だまりの会 理事長) | “ありのままに生きる”って 難しい…! |
| 2003 | 藤谷 蓮月 (守口市覚了寺・バンク坊主) | “バンク坊主”宣言 ～活き活きと生きる・共に生きる～ |
| | 陳 大順 (国立民族学博物館助教授) | “無国籍者”として生きること |
| | 米原 耕治 (東方障害者福祉事業設立代表) | “半身マヒ”でスポーツ指導 一くも膜下出血からの奇跡的復帰 |
| | 片山 旭星 (琵琶奏者) | 生き続ける琵琶の調べ |
| 2004 | 橋中 初男 (コルク昆虫画家) | 出来事は我が人生の ページ |
| | 橋口 高明 (出版社アソシエーツの会 常務理事) | 命と「水」を見続けて |
| | 武 るり子 (少年犯罪被害当事者の会 代表) | 少年犯罪で息子を奪われて |
| | 沢木 四郎 (元公立学校長) | 広島呼び 「兵隊さん、ボク、戦争はイヤです」 |
| | 馬津 良子 (奈良女子大学・立命館大学講師) | 婚外子の母として生きる |
| 2005 | 松原 一則 (作家) | 先に死なないで!!—長崎の被爆体験— |
| | 李 福美 (じんけん楽習塾) | 出会いからはじまる共生 コリアン系大阪人の立場から |
| | 土肥 いつき (セクシュアルマイノリティ直観目ネットワーク) | ありのままの「わたし」を生きる |
| | 堀尾 貞治 (現代美術作家) | 現代美術と僕 |
| 2006 | 牧口 一二 (合名会社おぼけ箱代表) | 歩かれへんけど 歩いてる |

| | | |
|------|---|---|
| 2006 | 有吉 須美人 (ブルースピアニスト) | ブルースの本場シカゴで、日本人が黒人音楽を続けるということ |
| | 舘林 千賀子 (同志社大学大学院) | 人と人が繋がっている社会 ～介助犬とともに車椅子で生活する中で感じたこと～ |
| | 田村 雅子 (野崎観音=慈眼寺) | ご縁を大切に ありのままに生きる |
| 2007 | 貝志アンデルソン飛雄馬 (多文化共生NPO世界人理事長) | 死んだら終わり だから生きるんだ ～多文化共生へのかけはし |
| | 大城 盛俊 (沖縄戦と平和をつたえる会) | 沖縄戦を生き抜いて 命こそ宝(ぬちどったから) |
| | 森田 隆子 (手記「女学生の戦争体験」発行者) | 女学生の戦争体験記 ～大阪香里く爆弾造りをさせられた乙女たち |
| | 岡崎 武志 (フリーライター) | 枚方生まれの我が古本人生 |
| 2008 | 倉田 智恵 (愛媛県佐田町代表 グループ) | 死なないこと・心を開くこと・自分を許すこと |
| | 康 玲子 (京都市小学校非常勤講師) | 私には浅田先生がいた 一在日朝鮮人として |
| | 牧田 アヤ子 (元市議会議員・枚方初の女性議長) | 私の60年 一交通局から紡績会社 そして議員に |
| | 笹尾 達朗 (NPO法人あつたサポート常務理事) | 非正規労働の時代に生きる |
| | 井上 幹一 (NPO法人スペシャルオリンピックス日本・大阪理事) | みんないっしょ 共に暮らすって……！ ～スペシャルオリンピックスの活動を通して～ |
| 2009 | アゴラ ナタニエル オルウチ (立命館大学経営学部国際経営学科講師) | アフリカ諸国の紛争と人権について |
| | 重岡 恵子 (グループホーム「マナ」管理者) | 出会い、ふれ合い、学び愛 ～グループホームでの暮らし生きいき～ |
| | 堀江 ひとみ (暴力団被害者の会会長) | 勇気を持って闘い続ける |
| 2010 | 米村 幸純 (TAV交通死被害者の会会員) | 僕のほうが青やったのに！！ |
| | 阿部 和子 (音楽教育家・合唱指揮者) | 生きるのってすばらしい |
| | 木野 秀夫 (元シベリア抑留者) | 凍土に眠る幾尾霜 |
| | 渡井 さゆり (NPO法人社会的孤児の当事者 名寄加道道徳体理事) | 生かされてしまった命にしないように |
| 2011 | 木村 鐘夫 (枚方市原爆被害者の会会長) | 被爆者を生きる |

| | | |
|------|---|--|
| 2011 | 鶴島 緋沙子 (作家、枚方市自衛隊慰問者の会代表) | トミーのいる街 |
| | う～み (シンガーソングライター) | 命の繋がり ～歌が世界を広げてくれた～ |
| | 平山 眞 (大阪理髪連合会中央支部のまわい会長) 平山 幸子 (大阪理髪連合会中央支部のまわい会相談役) | 里親として子供たちと歩んだ30年 |
| 2012 | 新川 初子 (ひめゆり同盟会大阪支部長) | ひめゆり学徒の沖縄戦 ～命(めち) どう宝～ |
| | 杉本 郁夫 (有限会社ライオン企業代表・ 株式会社経営者の会ラポール代表) | 命をつなぐ贈り物 ～自分にしかできないこと～ |
| | 小林 茂 (ドキュメンタリー映画監督) 天野 和彦 (福祉大学つくしまふくしま 産業支援センター 特任准教授) | ぼくたちは生きているのだ ～私のドキュメンタリー人生～ 生きている 生きていく ～Jack天野が福島被災地ととも歩む理由(わけ)～ |
| 2013 | 茂 幸雄 (NPO法人に響文庫・編集局理事長) | 命の灯台守 ～東尋坊の“ちょっと待ておじさん”～ |
| | 安野 ゆうみ・安野 団 (紙芝居師) | 紙芝居師の父の遺志を追う ～紙芝居が魅せる世界と吸引力～ |
| | 仲間 恵子 (大阪人権博物館学芸員) 高宮 敏光 (枚方市立杉中学校教育体育教諭) | 大阪のなかの沖縄 夢に向かって ～剣道を通して学んだこと～ |
| 2014 | 佐野 章二 (有限会社ビッグシュー日本共同代表) | ホームレスはビジネスパートナー ～ビッグシューの試みから～ |
| | 金 光敏 (NPO法人コアNGOセンター事務局長) | 民族学級と出会って ～外国人の子どもたちから見える多文化共生の街づくり～ |
| | 上西 祐介 (有限会社はなまる デイサービス統括) 神原 謙一 | 生きる力を、人から人へ ～「福祉」という仕事を通じて学び得たこと～ 全国24,681局の 郵便局窓口で貯金を達成 |
| 2015 | 道志 真弓 (元フリーアナウンサー) | 家族の絆 ～生まれてきてくれてありがとう～ |
| | 米田 下鶴 (主婦・チーム祐二実行委員会代表) | 野生児が カメラマンと呼ばれるまで |
| | 今西 美奈子 坂本 尚志 (元秋田県動物管理センター所 長・さかほ動物病院院長) | 戦後70年、今振り返る戦争と障害児た ちの日々 大切なあなたへ 伝えたいこと |

| | | |
|------|--|--|
| 2016 | 中川 るみ (大阪旭方療養所 職員(正社員)) | 相談を通して出会った、素敵な方たち ～悩む力強さに、励まされて～ |
| | 西澤 貞樹子 (なにわホネホネ団 団長) | 動物が生きた証を未来に残す ～なにわホネホネ団の13年から～ |
| | 外山 努 (枚方市老人介護者家族の会理事) | 僕の妻は認知症 ～夫婦の絆～ |
| | 柳岡 克子 (車いすの元気配達人) | 生きている喜び ～チャレンジは果てしなく～ |
| 2017 | 林家 染太 (落語家) | 笑う門には福来たる ～いじめられっ子のぼくが落語家になったわけ～ |
| | 杉野 文篤・杉野由美子 (認知症の人と家族の会会員) | 認知症と共に生きる ～認知症当事者(本人・家族)からの発信～ |
| | 倉出 めば (大阪ダルク ディレクター) | Help! ～薬物依存者というスティグマを越えて～ |
| | 中尾 勇守 (LGBT講演会講師) | セクシュアルマイノリティを生きる ～性同一性障害を乗り越えて～ |
| 2018 | 新居 真理 (バクバクの会～人工呼吸器を ともに生きる～関西支部長) | 人工呼吸器があってもみんなと一緒に! ～支援者と地域で暮らす～ |
| | 児島 一平 (NPOみんなの未来かいたく団代表理事) | ひきこもりだった。でも、だからこそ 感じられたことやできたことがあった。 |
| | 黄 光男 (ハンセン病家族訴訟原告団副団長) | 閉じ込められた命 ～私の母はハンセン病でした～ |
| | 菅本 香菜 (株式会社CAMPFIRE FOOD・LOCAL担当) | 食べることは、生きること～拒食症だった 私が、旅するおむすび屋を始めた理由～ |
| 2019 | 武田 秀司 (福島市立平野中学校教諭) | 福島の子もたちと教育現場の今 ～差別や偏見から負けない強い心を育てるために あなたの身近にもいるLGBT |
| | 井上 鈴佳 (レスビアン保健室の先生) | ～男女やLGBTだけじゃない!性のあり方は1人1色 発達障害と生きる ～当事者からのメッセージ |
| | 広野 ゆい (NPO法人DDAC(発達障 害をもつ大人の会)代表) | |
| | 永野 三智 (株式会社日本労働者 センター 札幌支店常務理事) | 水俣をとおして社会とつながる |
| 2020 | 谷岡 哲次 (認定NPO法人レノド館 経営者協議会 代表理事) | 娘が不治の難病と診断されました。 ～「レット症候群」をご存じですか |
| | 大矢 和枝 (東大阪市在住) | 米屋人の父とウチナンチュの母の子として生まれて ～人との出会いの中で沖縄と向き合えるように |
| | 余 秀煥 (南山城同郷生活相談センター代表) | 在日3世としてウトロに関わって ～そこから見えた人権と日本社会 |
| | 牧 秀一 (NPO法人阪神連絡大震災 よのす相談室 前理事長) | 人は人によって救われる ～25年間の震災ボランティア活動から |

| | | |
|------|--|--|
| 2021 | 常石 勝義 (元JRA(日本中央競馬会)騎手) | もう一度、大好きな馬と夢を掴みたい ～高次脳機能障害を乗り越えて～ |
| | 牛島 貞満 (元東京都公立小学校教員) | 牛島満と沖繩戦 ～国内での最大で最後の地上戦から学ぶこと～ |
| | 玉井 浩 (大阪医科大学小児 高次脳機能研究部長) | 命の選別への警鐘 ～出生前遺伝学的検査と胎児の人権～ |
| | 柳谷 和美 (おやこひろば桜梅桃李代表) | トラウマとともに、自分らしい生き方を見つけるまで ～サバイバーが語る性暴力・DV・虐待～ |
| | 坪倉 俊介 (ゆうすけ工房 草木染作家) | 記憶を失うとどうなるのか？ ～交通事故にあい脳の中まで出血する～ |
| 2022 | 白石 由美 (東京ひらかた病院脳神経科薬石 染病科医・救急科医・産後科医) | 新型コロナウイルス禍の中で 「生きること」を考える |
| | 清田 悠代 (NPO法人しぶたね理事長) | 重い病気のある「きょうだい」がいるということ ～自身の体験と、きょうだい支援の活動から～ |
| | 安野 柳子 (大阪空襲訴訟を伝える会) | 生えてこなかった足 ～空襲体験記とその後のこと～ |
| | 渡邊 洋次郎 (依存症回復施設職員・生 活支援員・介護福祉士) | 生き直し～人は強制力では変わらない。変わると したらそれは自分の中に息づく愛を知った時～ |
| 2023 | 語り部KOBÉ1995 田村勝太郎(語り部KOBÉ1995前代 表)、崔秀英(語り部メンバー崔敏夫 の三男)、和氣光代(元中学校教諭) | 阪神・淡路大震災から得た教訓 ～文え合うこと～ |
| | チャン・ティ・ヒエン (通訳翻訳家・ベトナム語司法通訳人) | ベトナム語の通訳を続けて25年 ～日本とベトナムの間で～ |
| | 山本 美由美 (ろうとLGBTQを支援する団体 Deaf LGBTQ Center 代表) | ろうとLGBTQの交差から「多様性」を考える |
| 2024 | 松尾 秀人 (中央労働災害防止協会認定「心理相談員」) | 強くなくても…支えていただいた19年～29年間の カウンセリング活動で教えていただいた室もの～ |
| | 河西 優 (立命館大学立命館総合研究所(人間科 学)客員研究員・NPO代表) | ケアと自分の人生 ～もっと知ってほ しい、子ども・若者ケアラーのこと～ |
| | 丸岡 康一 (箕面市人権協会 北芝地域協議会 会長) | 「であい・つながり・げんき」が豊かな コミュニティをつくる |